

知事 タウン メッセージ

石川県知事 谷本正憲



の幸など、多彩な魅力を一歩に活躍する企業など、優れた特徴を持つ企業の優秀な人材を求め、また、江戸時代の加賀藩前田家に保護され、発展した職人技や匠の技術

加賀百万石の魅力あふれる 石川県で豊かな暮らしを

生活面では、保育サービスの充実やワークライフバランスの推進により、子育て環境は全国トップクラス。共働きでも、一人でも多くの専修大学の学生が皆さんに就職し、しっかりと支援してまいりますので、本県の未来を担っていただけることを楽しみにしています。

【ジョブNAVI石川】 <https://jobnavi-i.jp/>
【いしかわ移住Uターン相談センター】 <http://ishikawa-note.jp/>

会員証を持つ佐々木学長(右)と達増知事

岩手U・Iターンクラブ 発足式



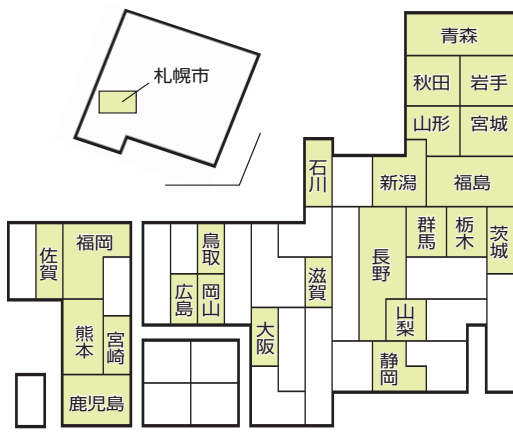
岩手U・Iターンクラブに加盟 佐々木学長「地域の発展に貢献」

岩手県と大学が連携の形で作られた会員証が、同県へのU・Iターン就職の促進を支援する「岩手U・Iターンクラブ」が発足、本学が加盟した。クラブには首都圏を中心に大学・短大49校が加盟。県が就職情報の提供や就職に関するイベントの開催支援などを行い、大学側は学生への情報提供やインターンシップ支援などに取り組む。

6月16日、都内で発足式があり、加盟大学に達増知事から岩手県産奨励していただくのが大学の役割と話した。

Uターン就職促進協定締結自治体

(2018年7月10日現在)



本学が自治体とU・Iターン就職支援協定を結ぶのは25件目となる。

多くの学生が参加したU・I・Jターンの考える合同説明会=生田キャンパス



夏は地方でインターン

U・I・Jターン合同説明会

生田キャンパス 24自治体が参加

地方でのインターンシップや就職を希望する学生を支援する「実家でくらす、地元で働くU・I・Jターン」を考える合同説明会が6月22日、生田キャンパスで開催され、約110人が参加した。キャリアデザインセンター事務局と就職課の主催。3回目の開催となった今回は、専修大学が就職支援協定を結ぶなどしている23道県、1政令指定都市の担当者がアブスを設け、「実家に戻って暮らしたい」「地元で働きたい」「首都圏以外で働きたい」などといった学生の相談に応じた。同時にL.O活(L.OC A.L+就活・地方就職に役立つ情報を提供する厚生労働省のプロジェクト)による「インターンシップ準備講座」も開催され、夏休み明けに参加を希望する学生が有益な話を聞いていた。

青森県出身の秋山沙希さん(商3)は「小さい頃から北海道のアイスホッケーチームが好きで、観戦のため頻りに足を運んでいた。将来は北海道へのJターンを考えており、夏のインターンシップで自分に合う職業を見つけた」と話した。

参加した自治体からは「U・I・Jターンに関する高い学生と話ができて良かった」という意見が寄せられた。

新潟出身学生が副知事と懇談



高井副知事(右)に就職への希望などを語る新潟県出身学生

就職支援協定を結んでいる新潟県の高井盛雄副知事が6月20日、神田キャンパスを訪れ、Uターン就職などについて新潟県出身学生と懇談した。(文1)、桑原航弥さん(文1)の5人。

「地元を離れ一人暮らしをして価値観が変わった。そして、改めて新潟の良さがわかった」と金安さん。就職については5人の中でも、地元に戻りたいという意見と、若いうちは首都圏で働きたいという意見に分かれた。富所さんは、実際に出身県にUターン就職する学生は30%程度であることを踏まえ、「知り合いの話を聞くと、Uターン希望のほとんどが公務員か金融。もっと民間企業の情報を伝えてほしい」と要望。高井副知事は「暮らしやすさも含めて、新潟の生の情報を広く伝えていきたい」と述べた。

同県の就職情報サイトに登録しているという唐澤さんは「これから都内

福祉サービスの活用法紹介 初の就活セミナー開催



神田キャンパスでは、福祉サービスを活用した就活スタートアップセミナーが6月26日に開催された。

福祉サービスを活用した就活について説明があったセミナー=神田キャンパス

福祉サービスを活用した就活について説明があったセミナー=神田キャンパス

参加者は「就労移行支援に関する情報をどこで得られるかわからない状態だったので、このような機会があればいい。できることから少しずつ取り組んでいきたい」と話した。